

食欲の秋

林田 明

食欲の秋ということばは 私たちの年代も 若い世代の人達にも それぞれの体験 体調のちがいもありますが あまり関心がなくなってきたように 思われます。

私たち 戦中戦後と 様々な食料事情の下で 過ごしてきましたが 今、私の日常の食事は 配達の弁当と 近くのスーパーでの食材が主になりました。

それでも秋の味覚 (野菜は秋茄子 魚ではなど) の便りが聞こえると 体調は別にしてやはり食欲がわきます。



また 大阪の食べ物では かつて気安く食べられた かやく飯(五目御飯), 箱ずし (押し寿司、ばってら), 色のうすいつゆのうどん。そして織田作之助の自由軒(カレー)や 夫婦善哉なども懐かしいです。 大阪へ行けば これは美味しいというものは 残って欲しいです。



それが 今や蛸やき お好み焼に串カツを 食べながら歩く様子は 大阪の名物としては 私にはなじめません。

(551 の豚まんは 美味しくて今は 大阪名物のようです)

かって「大阪の食い倒れ」「京の着倒れ」なんていわれましたが 美味しい料理など「食い倒れ」は京都にとって代わられたように思います。



食べ物の話題は 皆さんの関心もつよく この会合でも取り上げられましたが 90代に入っても 今年の酷暑を乗り切れたのですから これからも 体調や動ける範囲で 秋の食欲をみだし 美味しく食べたいと思っています。